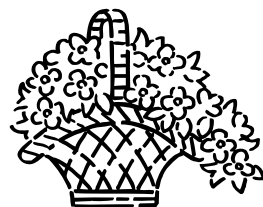


# いきいき南丹

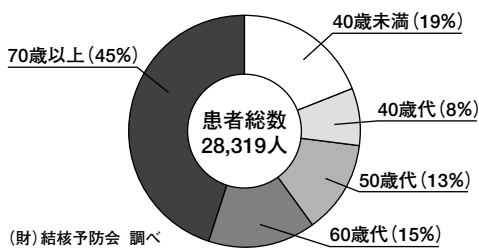
-11-

お元気ですか?  
保健師です。



## 風邪のようで風邪じゃない その“せき”結核ではありませんか？

平成17年度  
全国の結核患者の年齢ごとの割合



昭和初期には国民病として猛威を振るった結核も、栄養状態や衛生状態の改善、医療の進歩などに伴い過去の病気として忘れ去られるようになりました。しかし、わが国では近年、主に高齢者の中で再び結核が急増しています。

昭和初期には国民病として猛威を振るった結核も、栄養状態や衛生状態の改善、医療の進歩などに伴い過去の病気として忘れ去られるようになりました。

### ■風邪のようで風邪じゃない

症状が風邪に非常に良く似ているため、気付かないで病状が悪化し、他人に感染させたりすることが少なくありません。咳やたん、微熱・倦怠感・食欲不振・やせる・胸痛などの症状のときは結核を疑いましょう。

風邪かな？と思っても、

乾いた咳が二週間以上続く・風邪がなかなか治らないなどの症状の時は、早めに病院で検査をしてください。

### ■高齢者は特にご用心

(財)結核予防会によると全国で平成十七年度に、新たに結核にかかった人の四十五割が七十

歳以上です。また、南丹保健所管内では新たに治療を受けている三十八人のうち、六割以上が七十歳以上です。

高齢の方は、結核流行時を経験していて、すでに若い頃に結核に感染している人が多く、体力・抵抗力が低下した時に、眠っていた菌が目覚まし発病しやすくなります。反対に、若い世代の多くは結核に未感染のため、菌を吸い込むと感染しやすく、学校や職場では

一人の患者から多くの人に感染させてしまい、集団感染の危険性が高くなっています。

### ■結核の検診を受けましょう

結核の感染を発見する機会を、医療機関での受診が一番多く、次いで職場での健診や市民健診などによるものです。特に高齢者の結核では、先に示した症状が出ず、多くの人に感染させる場合があります。症状が無く

ても年に一回は、レントゲン検査を受けましょう。

### ■結核は治る病気です

万一、結核を発病しても約半年から一年、薬による規則的な治療を受けることで治る病気です。しかし、症状がなくなったからと服薬を勝手に中断する人が多く、その間に菌が耐性を持つてしまい、治療が困難になることがあるので注意が必要です。

今でも、日本国内で毎日八十人の新しい結核患者が発生し、六人が亡くなっています。結核を自分自身の問題として今一度考えてみませんか。

## 3月24日は世界結核デーです。

### ●家庭で出来る予防法

- 睡眠時間を十分にとる
- 適度にスポーツをする
- 好き嫌いせずバランスのとれた食事をする

### ●こんな時はすぐ病院へ！

- 長引く咳(2週間以上)
- たんが出る
- 長引く微熱
- 長引く倦怠感(体がだるく、活力が出ない)
- 胸痛
- 体重減少

